

温暖化がもたらす海面上昇による 危機に直面する南太平洋島嶼国を支援します。

■ キリバス共和国

これまでの活動

起伏がなく、川のない同国では、飲料水の確保が重要です。そこで、私たちは降水を利用する、雨水貯蔵タンクを設置しました。また、温暖化に起因する降水量の急増により、主要な産業である製塩業が「塩が乾かない」という深刻な状況に陥っていることから、移動可能な、乾燥用のプラスチックトレーと海水移動用ポンプ一式を設置しました。



海岸の浸食が進んでいる

2004年の活動

海岸線の浸食抑制に効果があり、また、防潮堤としても機能するといわれるマングローブの植林に向けた準備を行いました。より確実に、効果を生む活動にするため、同国政府や地元住民、特に学校との協議を重ね、現地のネットワークを作ることができました。また、多種多様なマングローブの中から適した種類を選定したり、植林時期を特定するための調査を実施しました。

今後の活動

04年度の事前調査で、地元では温暖化問題や環境保全についての意識啓発が課題の一つとなっていることが分かりました。05年度は、マングローブ植林と、それを通じた現地の子どもに対する環境啓発活動を行う計画にしています。プロジェクトパートナーである、国際マングローブ生態協会(ISME)、NPO法人APSDとともに植林、および環境啓発ツールの作成を行う予定です。

■ ツバル共和国

2004年の活動

キリバスの隣国である同国は国土が小さく、より地下水が乏しいため、問題はさらに深刻です。私たちは現地で調査と政府(総理府・環境省ほか)との綿密な打ち合わせを行いました。

今後の活動

既に飲料水の供給が不能な地域が増えており、飲料水の確保が緊急の課題である同国へ、給水車の寄贈を行う予定です。これにより、ツバル政府保有の雨水タンク及び淡水化プラントからの飲料水の配送が可能になります。